

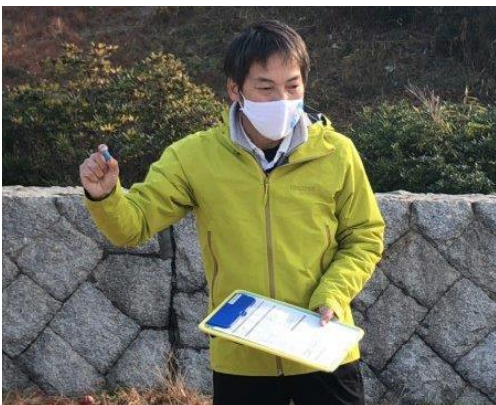
一から学ぶ海ごみ講座 開催しました！



- 日時 令和3年1月16日（土）9：30～11：30
- 会場 坂出市 万葉会館 大ホール・沙弥島海岸
- 講師 NPO法人アーキペラゴ 理事 森田 桂治 氏
- 講師アシスタント 岡 加依子 氏（かがわ海ごみリーダー）

1月16日（土）、坂出市 万葉会館・沙弥島海岸にて、一から学ぶ海ごみ講座を開催し、20名が受講しました。本講座は、海ごみの原因・現状・抱えている問題を知り、講座を通して海ごみや里海への関心を深めていただくことを目的とし、開催しました。

初めに、沙弥島海岸へ全員で移動しました。冬場の西風の影響もあり、たくさんの漂着物が海岸に打ち寄せられていました。講師より、講座の目的、漂着物の代表的な例、ごみを拾う際の注意事項の説明を聞いた後、グループに分かれてごみ拾いを行いました。今回は、ごみをただ拾うだけでなくICCデータカードを使って、漂着物を品目ごとに個数を数えて記録しました。漂着物には、ペットボトルや生活雑貨、漁に使う樹脂製のブイなどが多く、大きいサイズの発泡スチロールの箱もありました。1時間ほどの作業で大量のごみを集める事ができました。最後に、グループごとに結果報告を行いました。



後半は、万葉会館へ戻り、海ごみについてどんな種類が多いのか、どんな問題があるのか学びました。マイクロプラスチックの話では、実際にプラスチック片を色や形で分類する作業を行いました。グループ内で「これは何の破片だろう？」と相談しながら協力して分類していました。続いて、講師からプラスチックは自然の中でほとんど分解されず、プラスチックが劣化で小さくなり「マイクロプラスチック」になると回収も困難になると説明がありました。



また、海ごみの多くがプラスチック製品であることから、処理方法など、私たちのプラスチックとの関わり方として、講師から、①燃やす ②リサイクル ③リユース ④リデュースの中で取組として最適な順番を考えてみるよう問いかけがあり、グループごとに話し合いました。その結果、④リデュース（使い捨てを減らし、どうしても必要な部分にだけプラスチックを使用する）が最適ではないかという意見が多く上がりました。



他にも、コアホドリが海ごみを誤飲している衝撃的な映像や日本のプラスチックの現状、プラスチックごみ削減に対する世界の取り組みなどの紹介もありました。

最後に、海ごみ問題に対して「私たちにできることは何だろう？」というテーマについてグループで意見を出し合いました。「できるだけマイバッグ、マイボトルを使う」、「今日の講義内容を人に伝える」、「モノを大切に長く使う」など、海ごみ問題に対する個人の意識レベル向上のきっかけとなる講座となりました。